

	調査手法	調査地点・調査範囲	調査年度	調査時期・回数				調査方法
				春	夏	秋	冬	
鳥類	メッシュセンサス法	250mメッシュ×2箇所	平成20年度～ 毎年度	●	●	●	●	・メッシュ内を一定時間（30分）くまなく踏査する。その間に双眼鏡及び鳴き声で確認できた種数を記録する。早朝と夕方の2回実施する。
	任意観察	全域（88ha）		●	●	●	●	・調査員が全域をくまなく踏査する。その間に双眼鏡及び鳴き声で確認できた種を記録する。（水辺も含む）
哺乳類	痕跡 （フィールドサイン）調査	全域（88ha）	平成30年度	●	●	●	●	・調査員が全域をくまなく踏査する。その間に糞や足跡、塚などの痕跡（フィールドサイン）で確認できた種を記録する。（水辺も含む）
	捕獲調査	2箇所×20個				●		・樹林環境及び草地環境の2環境にそれぞれ1地点ずつ調査地点を設定し、シャーマン式アライブトラップを各地点20個ずつ設置し、捕獲された小型哺乳類を記録する。
昆虫類	スウィーピング・ ビーティング	100mメッシュ×2箇所	平成20年度 平成25年度 平成30年度	●	●	●		・メッシュ内を一定時間（30分）くまなく踏査する。その間に捕虫網で捕獲できた種を記録する。
	任意採取法	全域（88ha）		●	●	●		・調査員が全域をくまなく踏査する。その間に目視観察及び捕虫網で捕獲できた種を記録する。
	ベイトトラップ法	2箇所×10個		●	●	●		・夕刻に1箇所あたり10個の餌を入れたビニールコップを埋めて、翌朝回収する。
	ライトトラップ法	2箇所×各1台		●	●	●		・日没後3時間カーテン式のライトトラップを2箇所に設置し、飛来した昆虫類を採集する。
真正クモ類	スウィーピング・ ビーティング	100mメッシュ×2箇所		●	●	●		・メッシュ内を一定時間（30分）くまなく踏査する。その間に捕虫網で捕獲できた種を記録する。
底生動物	エクマンバージ採泥器を 用いたサンプリング	2箇所×各1回（東側の池）			●		●	・エクマンバージ採泥器により採土し、そこに含まれる底生動物の種類と個体数を数える。
土壌動物	ハンドソーティング法	2箇所			●			ハンドソーティング法を用いて調査を行なう。種の同定は、「自然の豊かさ評価」の土壌動物群までとする。